

授業の様子

2023.6.24

授業中に廊下をうろうろと歩くことが多い。国語のS先生は、「校長先生、こんにちは」と私を教室へと誘ってくれる。教室に入ると、生徒もあいさつをしてくれる。しばし、授業の様子を見ることもあれば、一言メッセージを残して去ることもある。

どの教室でも、黒板の学習課題を確認している。興味があったり、いい課題だなと思うときは、教室に入る。生徒の様子を見る。いつお邪魔しても、授業者は一生懸命である。生徒は落ち着いて取り組んでいる。

だが、授業によって、少しずつだが違いがある。授業開始5分の違いである。いわゆる導入である。生徒が生き生きと学習している授業は、導入が違う。導入には、学習課題も含まれる。考えたくなるような学習課題では、生徒の反応が違う。「よし、やってみよう」と意欲がもてる課題がある。こういった場合は、扱う題材もよい。「んん、ちょっとむずかしいなあ」と少しの抵抗感があるのもよい。多少むずかしいが、できそうな課題である。

最初の5分が、その後の45分を決める。導入がいい授業には、適度な緊張感がある。そこには、「今日は、どんなことをやるんだ」という期待感や少しばかりのドキドキ感もある。数学のK先生の導入は、いつもこんな感じである。「あれっ、今日は研究授業だったか」と思わせるときもある。普通の授業と研究授業との差がさほど感じられない。

前述の国語のS先生の導入は見事である。テンポよく進み、コンパクトである。それでいて、課題が生徒のものになっている。生徒が、課題意識をもつことができている。導入は、可能であればコンパクトな方がよい。そうしないと、せっかくの意欲が、どこかにいってしまうことがある。学習課題が提示されたころには、生徒の意欲が減退してしまうのである。ただし、数学の授業などでは、この限りではないことがある。課題づくりが、そのまま学習になっていることがある。

授業の様子を見ると、気になることがある。空いている席がないか、授業に参加できていない生徒はいないか。この2つである。教室に全員の生徒がいて、全員が授業に参加している。これが、目指す姿である。もちろん、他にもやるべきことはある。まずは、誰一人取り残さない授業であってほしい。

授業を見ていると、生徒はいろいろな顔や姿を見せてくれる。保健体育の時間に、英語とは違う顔を見せる生徒がいる。美術の時間に、理科の時間とは違う姿を見せる生徒がいる。音楽の時間に、数学とは違う顔をしている生徒がいる。それでよい。

廊下をうろうろしているだけのようでも、実に多くのことがわかる。気が付くことが多く、教えられることも多い。生徒の学校生活のほとんどが授業である。そのことは、肝に銘じておきたい。